

地方都市行政調査 報告書

委員会	産業環境委員会		
調査年月日	令和4年10月26日(水)	調査場所	宮崎県宮崎市
委員	委員長 さの 智恵子 副委員長 古 性 重 則 副委員長 横 田 ゆ う 委員 小 泉 ひろし 委員 伊藤 のぶゆき 委員 くじらい 実		

調査項目	マチナカ 3000 プロジェクトについて
調査の目的	宮崎市では、中心市街地の雇用創出を進めるため、10年間で3,000人の雇用を増やし、まちなかの活性化を図る取り組みを平成27年から行っており、令和3年度までに3,000人を超える雇用を創出し、3年前倒しで目標を達成している。この成功事例の取り組みについて、調査・研究を行う。
調査内容	近年、宮崎市においても人口構造、都市構造や社会構造に変化が生じ、マーケット全体の縮小やまちなかの空き店舗等の課題が生じていた。この課題に対応するため、宮崎市では宮崎県庁や宮崎市役所等を含む、南北に訳1.5km、東西で1.3km、面積で162haの区域を宮崎市の中心市街地と定め「宮崎市まちなか活性化推進計画」を策定し、中心市街地の活性化に取り組んできた。この計画の柱となるものが、中心市街地にクリエイティブ産業の3,000人の雇用創出を目指す「マチナカ 3000プロジェクト」である。本プロジェクトは、企業誘致、創業サポート、業務集積、企業立地チャレンジの4つで構成され、奨励金や助成金を通じてまちなかの雇用創出を図っている。この中で、特に企業誘致については7年間で81社、2,711名と大きな成果を上げている。ほかにもベンチャー企業12社、創業支援の実績が318名と順調に成果を伸ばしている。
主な質疑	<p>(問)「中心市街地」の中に宮崎県庁が含まれているが、県とはどのような連携とっているのか。</p> <p>(答)連携はないが、国からの情報は必要に応じて共有している。</p> <p>(問)企業誘致で81社の誘致に成功したが、奨励金や企業側のメリットをどのように周知したのか。</p> <p>(答)市が定める3つの奨励制度で誘致している。企業情報は、東京都にある宮崎市の東京事務所が企業の情報を集め、宮崎市の担当課と連携している。</p> <p>(問)いろいろな補助や助成があったが、事業の予算規模はどの程度か。</p> <p>(答)宮崎創業サポート事業は委託料と賃料を合わせ約1,400万円、業務集積事業は540万円、企業立地チャレンジ事業が補正込みで250万円である。</p> <p>(問)3年前倒しで目標を達成できたが、今後の展開は。</p> <p>(答)上位計画が2年延伸となり、まちなか活性化推進計画も2年延伸が見込まれている。マチナカ 3000プロジェクトを分析し、新たな施策を打ちたい。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	マチナカ 3000プロジェクトでは、中心市街地の活性化について「クリエイティブ産業の雇用創出」とターゲットをしっかりと絞ることで、コンパクトシティの実現に向けた方向性を示し、人口構造や都市構造等の変化に対応した都市形成を目指している。足立区でも雇用創出に向けた取り組みを進めているため、当区の課題解決の参考となるものである。

地方都市行政調査 報告書

委員会	産業環境委員会		
調査年月日	令和4年10月27日(木)	調査場所	鹿児島県志布志市
委員	委員長 さの智恵子 副委員長 古性重則 副委員長 横田ゆう 委員 小泉ひろし 委員 伊藤のぶゆき 委員 くじらい 実		

調査項目	使用済み紙おむつのリサイクルについて
調査の目的	志布志市はごみの焼却炉を持たず、27品目にも及ぶごみの分別回収により埋め立て処分場の延命化を図っている。志布志市では、埋め立てごみの約2割を占める使用済み紙おむつの課題を解決するために世界で初めて使用済み紙おむつの水平リサイクルに取り組んでおり、このことについて調査・研究を行う。
調査内容	志布志市は平成2年に設立された埋め立て場を近隣4自治体で活用し、ごみの埋め立てを行っていたが、埋め立て場の平成16年でいっぱいとなる見込みとなり、埋め立て場の延命化を続ける努力を続けてきた。早くからごみの分別収集が続けられ、平成25年からは27品目に細分化されリサイクルできるものを増やす方針が打ち出された。その後、平成28年にユニ・チャーム等との間で協定を締結し実証実験を開始し、現在は隣町の大崎町を加えた4者で実証実験に関する覚書を締結した。使用済み紙おむつのモデル回収については、モデル地区において週3回実施され、大崎町と合わせ年間500tの紙おむつを回収することができた。なお、紙おむつを排出しやすいよう、志布志市ではごみ袋が有料だが、紙おむつ専用ごみ袋は無料配布するほか、保育所や公民館に専用の回収BOXを設置している。また、志布志市では記名式のごみ袋を採用しているが、紙おむつ専用のごみ袋は裏面に記名できる等の配慮がなされている。使用済み紙おむつのリサイクルに成功すれば、最終処分場の更なる延命化やリサイクル率4%の向上が見込まれる。同時に、可燃性埋め立てごみから固形燃料にリサイクルすることができればさらに大幅な埋め立てごみの減少が見込まれるため、これらの実現可能性の調査を行っている。また、説明終了後にリサイクルセンターの施設見学を行った。
主な質疑	<p>(問) おむつの回収袋に異物が混入することはないのか。</p> <p>(答) 混入がある場合、金属探知機でわかる。回覧で注意を促している。</p> <p>(問) 生ごみ回収時と紙おむつは同じ車で回収しているのか。</p> <p>(答) 現在は同じ車だが、将来的にはつぶれないように別の車を予定している。</p> <p>(問) 施設における紙おむつの回収は？</p> <p>(答) 施設の人数が少ないため、市民から回収となった。1年後に施設での回収を検討している。</p> <p>(問) リサイクルにかかる予算は。</p> <p>(答) 実証実験中の市の負担は回収にかかる費用のみだが、本格運用後は別である。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	27品目にも及ぶごみの分別は大変参考になるものであった。また、高齢化が進む現代社会において、一般ごみに占める使用済みの紙おむつの比率は今後上昇する可能性が高く、SDGsの観点からも使用済み紙おむつの水平リサイクルの考えは大いに参考になるものである。

地方都市行政調査 報告書

委員会	産業環境委員会		
調査年月日	令和4年10月28日(金)	調査場所	宮崎県日南市
委員	委員長 さの智恵子 副委員長 古性重則 副委員長 横田ゆう 委員 小泉ひろし 委員 伊藤のぶゆき 委員 くじらい 実 委員 中島こういちろう		

調査項目	テナントミックスサポート事業、空き店舗対策事業について
調査の目的	宮崎県日南市にある油津商店街はシャッター商店街であったが、IT企業等の誘致による商店街の再生に成功し、「日南の奇跡」と呼ばれている。当該商店街の再生について、事業の調査・研究を行う。
調査内容	<p>日南市の油津商店街は、昭和初期から昭和40年頃にかけて栄え80もの店舗が入った商店街であった。その後、人口減少等の影響で空き店舗が増加し、シャッター商店街と化した。その状況下、日南市は4年間で20店舗の誘致を掲げテナントミックスサポートマネージャーを公募し、木藤氏が選任された。株式会社油津応援団はテナントミックスサポートマネージャーを補佐することを目的とし、現取締役会長の黒田氏ほか2名で設立された。油津応援団ではまちに必要なものを「つなぎ場、たまり場」と捉え、商店街をビジネスの場として活用し、商店街がその地域に何ができるのかを考えた誘致に取り組んでいる。現在、商店街には13社のIT企業が入ったが、子育て世代の女性が多いため民間経営のこども園も入った。また、油津は昭和38年から広島カープのキャンプ地となっており、カープファンが宿泊するゲストハウス等も設置された。結果、商店街には4年間で目標を上回る30店舗がオープンに成功した。油津応援団では持続可能な商店街づくりのために、「まちをプロデュースする人材育成」が最重要と考え、人が育つ環境や仕組みづくりに取り組んでいる。</p>
主な質疑	<p>(問) 日南市の人口を維持する取り組みは行政と連携して行っているのか。</p> <p>(答) 人口は減るだけなので、交流人口、関係人口を増やすことが重要と考える。</p> <p>(問) 商店街は「物を買う場」だったが、これからは「喜びや楽しみを提供する場」に変わるという認識か。</p> <p>(答) その通りである。油津商店街は空き店舗が多かったが、空き店舗があり、場所があつて良かったという状況だった。</p> <p>(問) 新しい取り組みには批判が付きものだが、風向きが変わったフェーズがあれば教えてほしい。</p> <p>(答) 当初は相当な批判があつたが、油津 Yotten ができ、施設を体験してもらうことで風向きが変わってきた</p> <p>(問) 油津応援団には情報、知識等、非常に長けた人がいたのか。</p> <p>(答) 市の担当者が第4の取締役のような役割をしており、詳細な情報が入りやすい環境だった。民間だが、行政と一緒に仕事をするが多かった。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	商店街の活性化はどこの自治体でも課題となっており、新たな観点からの商店街に関する取り組みは、課題解決に向けて大いに参考となるものである。